

感染落ち着き 景況感回復へ

新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着く中、県内企業の景況感が今年前半にかけて上向き見通しとなった。

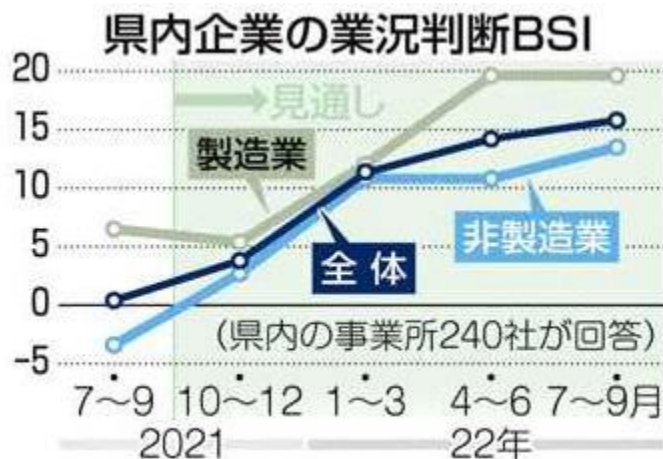
当社が昨年十一月下旬に県内企業に対して行った調査によると、七～九月の業況判断 BSI は 0・四で、それ以降の見通しは十～十二月が三・八、二二年一～三月が一・三、四～六月が一四・二、七～九月が一五・八だった。BSI は、景気が前年同期と比べて「上昇」と答えた事業所の割合から「下降」と答えた事業所の割合を引いた指数。

背景には、新型コロナの感染状況が落ち着いたことで飲食や観光など外出に伴うサービス消費が持ち直していることや、東南アジアでのロックダウンなどによる部品の調達難から大幅に減らしていた、自動車の生産が徐々に持ち直してきたことなどがある。

経済活動の持ち直しとともに、企業では設備投資意欲や人手不足感が高まり、二〇二一～二二年度中に人員を増やす、または増やしたいと答えた企業は計 65% に上った。売上高も、二二年の四～六月にはコロナ前の 99% (回答企業平均) まで持ち直す見込みとなった。

ただ、新変異株「オミクロン株」や原材料価格の高騰、物流の逼迫や半導体不足など、下振れリスクは多い。これらの動きを注視していく必要がある。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2022年1月6日